

矢板市青少年 育成市民会議

みらい



心豊かでたくましい矢板の青少年の育成

発行責任者：会長 豊田 裕之
広報部：部長 森島 幸男

平成22年6月に、矢板市青少年育成市民会議が設立され13年が経ちました。その間、矢板市市長会・市小中学校長会・少年指導員会等の構成団体から選出された理事の方やボランティアとして協力して下さった理事の方々の協力を得て、事業を進めることができました。児童・生徒の心身の健全な育成を目指して、各学校への図書や運動用品の寄贈、「あいさつ・声かけ運動」それに伴うポケットティッシュ配布や犯罪から子供たちを守るため、携帯電話等の親子での使い方講習会開催「ネット時代の歩き方講習会」、本会の趣旨や活動を啓蒙する広報誌「みらい」の発行、県や地区での各種研修会への参加等を行ってまいりました。

この度、2月22日の総会において、他団体との事業の重なり、役員数の減少等の理由で、本会の解散が了承されました。今後、市生涯学習課を通して類似の目的を有する団体に事業を引き継いでいただく予定です。これまでの物心両面に渡るご協力ありがとうございました。心より感謝申し上げます。会長 豊田裕之

会長挨拶(感謝・解散)

少年の主張

8月31日に塩谷庁舎で「栃木県少年の主張発表塩谷地区大会」が開催されました。学校・家庭・社会及び友人・グループ等の関わりの中で、日頃感じていること、考えていることをまとめた提言や希望、抱負を5分以内で発表するものでした。

矢板市からは、矢中3年 酒井彩姫さんが「自分らしく生きる」を、附属中3年 杉山美嘉さんが「広がれ、私の世界！」を、片中3年 関谷奏杜さんが「大きな『夢』を持つ」を発表し、優秀賞に選ばれました。



10月1日、足利銀行矢板支店から矢板武記念館までの本通りで、第15回やいた軽トラ市が4年ぶりに開催されました。多くの方で賑わっている中、本会の総務部・活動部の部員と矢板市少年指導員会の皆様と合同で、あいさつや声かけをしながらポケットティッシュ配布を行いました。

声かけ・あいさつ運動

市内の小学校の一斉下校時に、矢板市少年指導員会の皆様と共に挨拶運動を行いました。児童の皆さんは、「こんにちは」「さようなら」など快いあいさつをしてくれました。



子供・若者育成支援推進強調月間

こども家庭庁が、11月を子供・若者育成推進強調月間に定めました。本会の母体である栃木県青少年育成県民会議から、広報啓発物品（ミニサイズカイロ）が届き、11月の市の文化祭の際に生涯学習館の玄関で配布しました。



ネット時代の歩き方講習会

9月6日（水）矢板小学校・12月8日（金）泉小学校において、保護者の方も参加して、携帯電話やインターネットの安全な使い方等を学びました。



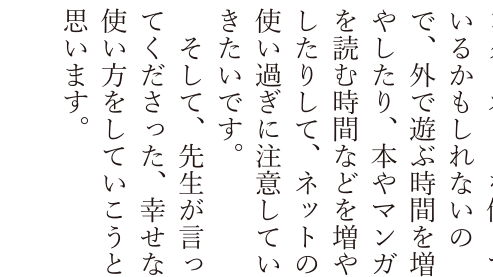
「インターネットの便利さと危険さ」スマートフォンなどの情報機器は、リュックやバックに入れるようなものを一台で扱うことができ、緊急時にも電話や連絡ができて人の命も救うことができる非常に便利なものだと分かりました。自分はこれから情報機器を扱うときにはインターネットの犯罪、トラブルに巻き込まれないように安全に扱うことが大切だと思いました。

矢板小学校6年 鈴木理央さん



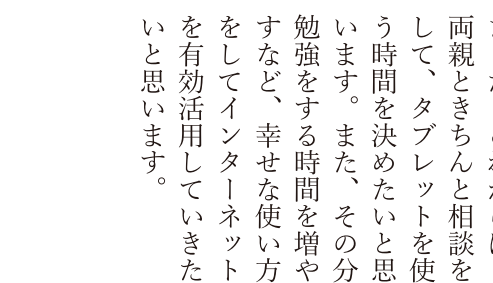
「インターネットの使い方をよく考えよう」動画を見るアプリ、ゲームアプリ、友達と対話を楽しむアプリなどを「ない」と「あったらいい」「なくてもいい」に分けて使い方を考えました。私はほとんどを「ない」と困る」に分類したけれど、グループで話し合い、「なくてもいい」と思えるものが少し増えてよかったです。この学習で、インターネットは凄く便利だが、あまりためてよくわかりません。インターネット上で悪いことが起きないようにこれから生活したいです。私は、インターネットを使い、よく調べ物をしたり、ゲームをしたりして、使い方を考えることは大切だと思います。

矢板小学校6年 菅野汐里さん



私は講習会を聞いて、スマホは便利だけれどこわいものだなと思いました。例えば、スマホがあることでスマホ依存症になったり、だれかを傷つけてしまったりすることがあるからです。スマホ依存症になると、成績が下がったり、運動不足になったりと、デメリットしかありません。だから私はそうならないようにルールを守ってスマホやインターネットを使っていきます。今、平日だと3〜4時間くらいインターネットを使っていて、外で遊ぶ時間を増やしたり、本やマンガを読む時間などを増やしたりして、ネットの使い過ぎに注意していきたいです。そして、先生が言うてくださった、幸せな使い方をしようと思います。

泉小学校6年 船山涼花さん



私は講習会を親子でやることによって、家庭でもインターネットの使い方も見直して、とてもいいと思いました。そして、インターネットには残念な使い方と幸せな使い方があることを知りました。今までは、残念な使い方の方で、いつも家に帰って来ると5時間くらい動画を観ていました。しかし、こんなにだらだらしている、ただ大切な時間がなくなっていくだけだと、今日の親子学び合い教室で見直すことができました。これからは、両親ときちんと相談をして、タブレットを使う時間を決めたいと思います。また、その分勉強をする時間を増やすなど、幸せな使い方をインターネットを有効活用していきたいです。

泉小学校6年 吉田音羽さん

